

平成19年6月発行

東京滝川会だより

第46号

<事務局>滝川市大町 1 丁目 2 番 15 号

滝川市経済部商工労働課

TEL 0125-23-2716 FAX 0125-23-5839

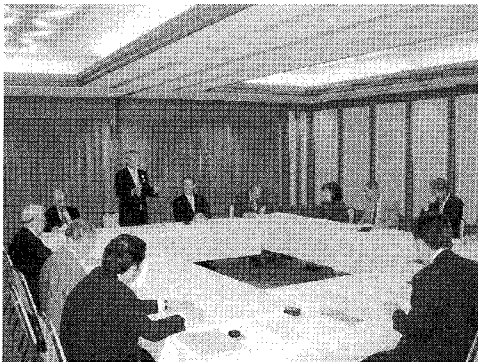
E-mail kougyou@city.takikawa.hokkaido.jp

URL http://www.city.takikawa.hokkaido.jp

東京滝川会役員会開催

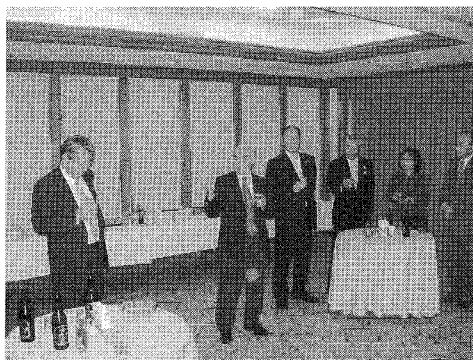
平成19年度東京滝川会役員会が平成19年5月15日(火)にアルカディア市ヶ谷にて開催されました。

役員会では、大川会長が「今年度の東京滝川会も力を入れて取り組みたい。ふるさとツアーをはじめ様々な事業を計画したいと考えているので、ご協力いただきたい。」とあいさつし、また、来賓の田村市長が「今回の統一地方選挙で再選され、しっかりとまちづくりを進めていきたい。さらふちキッズキャンプ、菜の花、移住定住など様々な取組みが着実に進んでいる。これからの4年間、全力投球で臨みたい。」と今後の抱負を述べられました。



平成19年度東京滝川会役員会開催

続いて、平成18年度事業報告、決算及び監査報告の了承を受け、さらに平成19年度事業計画、予算について審議し、いずれも提案議決されました。役員会終了後、増田副会長の乾杯のあいさつで懇親会が開かれ、役員の皆さんも和やかな雰囲気で歓談されておられました。



和やかな雰囲気で行われた懇親会

本年度の総会は、10月27日(土)午後4時からアルカディア市ヶ谷にて開催いたします。当日は、ふるさとの物産を持参するほか、楽しい企画で総会を盛り上げようと考えております。

また、昨年に引き続き、10月7日(日)・8日(月・祝日)に代々木公園にて会員交流会を実施予定です。昨年は、多数の方々が参加され、ふるさとの味ジンギスカンを堪能されておりました。

平成19年度事業計画

- 1 総会の開催
- 2 会員交流会の開催
- 3 ふるさとツアーの実施
- 4 ハローナイス滝川ツアーの受入
- 5 機関紙の発行
- 6 ふるさと産品の斡旋
- 7 会員拡大事業
- 8 地域活性化に向けた検討及びPR

本年度も総会、会員交流会、ふるさとツアーなど各種イベントを企画しておりますので、是非とも、ご家族、ご友人お誘い合わせの上、ご参加ください。
なお、事業計画についてご不明な点がございましたら、東京滝川会事務局までご連絡ください。



盛況だった昨年の会員交流会

音楽との絆を深めて

今年11月に滝川にて開催される市民ミュージカルの作曲・音楽監督を担当される会員の加賀清孝さんに音楽との出会いとミュージカルに対する意気込みをインタビューしました。

■滝川との関わりについて教えてください。

生まれも育ちも滝川で、生粋の滝川っ子。母は芸事が好きで、私が幼稚園の時、バレエを習わせるため、教室を開いていた願成寺に私を連れて行ったのですが、ちょうどその日はバレエ教室がお休みで、その日開かれていた音楽教室に入り、そこで、松浦先生に習ったのが音楽との出会いです。小学校は、第一小学校で、音楽クラブでアコーディオンを弾いていました。そのときに福田先生という非常に熱心な先生と出会い、その後、小学校4年生の時にはフルート、中学生になるとクラリネットや木管楽器をやりました。それが、将来自分が音楽の道へ進むきっかけとなりました。

滝川高校へ進学しましたが、滝川高校は進学校だったため、ブラスバンドなどの音楽活動がそれほど盛んでありませんでした。音楽の道を志していましたので、そこ

を1年で辞め、東京の音楽学校の附属高校へ進学しました。

■現在のお仕事について教えてください。

現在は、桐朋学園大学で声楽を教えています。

なぜ、学生時代に器楽をやっていたのに声楽のほうへ移ったかという点、まず、楽器が買えなかったというのが一つ。あと、作曲も志したのですが、作曲は、ピアノや和声学などたくさんの基礎的な音楽力が必要でしたので断念し、声楽の先生の勧めで、声楽の道に入りました。音楽に携わって、ありがたいことに今、少し作曲のほうも行なっています。作品は、小学校や中学校の教科書に掲載されています。

■ご家族と趣味についてお聞かせください。

私と妻と娘の3人家族です。あと、新十



音楽への情熱を語る加賀さん

津川に父がいます。母は3年前に亡くなりました。娘も音楽関係に進み、現在はロンドンにいます。

趣味はコンピューターです。それと、作曲もリフレッシュの一つです。歌がメインで作曲が趣味のようなものとなっています。

■滝川市でオペレッタやミュージカルなどに関わってこられて、どのような感想をお持ちですか？

第1回目の市民ミュージカルを立ち上げたときは、とても大変でしたけど、滝川には美術を担当する人や、メイクアップを担当する人など、いろんな人材がいるとわかり、実際に関わってよかったと思いました。

昔、何もない時代に、この滝川で、松浦先生をはじめいろいろな先生が、音楽活動に情熱を注いでこられ、このミュージカルを通してまだまだそういうものが残っていたのだと感じています。

11月に行なうのは、全くオリジナルの作品。滝川にしかないオリジナルの作品を作るということで、大変だと思うけど、非常に楽しみにしています。

今回、私は、オリジナル作品の曲を書かせていただくことになり、これから何曲も書かなければならないのですが、それをブ

ラスバンドのオーケストラに編曲したり、出演者に歌の練習をしたりと、あらゆる段階を全部組まないといけないので、そのエネルギーを保つのは大変だなと思います。そういうことを当時、松浦先生はおやりになっていた。だから、先生が注いでいた情熱のどのくらいの情熱を私が持っているかは、わからないけど、やらなくてはならないという使命感に燃えています。

■今後の文化の振興についてどのようにお考えですか？

テレビの文化から離れていくことが必要だと思います。もちろんテレビも素晴らしい情報を提供する場合がありますが、テレビというのはすべて受動的。それも、生身の人間ではない、電気というフィルターを通しています。テレビから離れて、生身の人間として、自分たちが発信していく。たとえ失敗しても、生身の人間が舞台でやるということのすごさを感じてもらえたらうれしいなと思っています。

みんな帰宅すると、ご飯を食べて、ビールを飲んで、ソファにひっくり返って、テレビを見てというスタイルになってきている。家庭のいろんなものも、そのテレビに吸い取られてしまっていて、例えば、家族で舞台を見た後、家に帰る車の中で、今日こうだった、ああだったいろんなこと

独立開業がんばる稲垣さん

を話す機会があるが、テレビは、番組が終わってしまったら、コマーシャルが流れて「さあ寝るか」「はい、おやすみ」というように絆を薄めてしまうと思います。

こういう希薄さが続くと、人と人とのつながりが大切だったことを忘れてしまいがちです。

最初にミュージカルをやるときも、市内のいろいろな文化団体を全部巻き込もうと思いましたが、なかなか難しかった。やりたい人も、やりたくない人も、自分のことで精一杯で協力できない人もいた。小さな町で、それぞれが別れて活動して、リンクがないというのが、少し残念でした。

松浦先生は、合唱もやり、ブラスバンドもやりと非常に多彩な人で、おそらく、いろんな人を巻き込んで、いろんなことをやっていったと思います。それは、すごい力だと思ふし、音楽というものがそれだけの力のあるものだということを身をもって教えてくれたのだと思います。彼の教え子には専門家もいれば、そうでなくても音楽を愛して、市民ミュージカルに協力してくれる人もいます。音楽に対する情熱の火を絶やさず伝えた先生は、やっぱりすごいなと思います。

(平成19年5月12日滝川市文化センターにて東京滝川会事務局村井インタビュー)

く会員の稲垣俊幸さんに滝川での思い出などをインタビューしました。

■滝川との関わりについてお聞かせください。

昭和35年に滝川で生まれ、滝川西小学校に入学。1年生の2学期に滝川第一小学校に転校し、卒業。江陵中学校を経て滝川高校に進み昭和54年3月に卒業をしました。

生まれも育ちも滝川で、帰省した時には滝川在住の同級生と必ず会い一献傾けています。

■高校卒業後の進路について

高校卒業後は、神奈川大学経済学部に進みました。昭和59年に呉服専門店チェーンの「株式会社 東京ますいわ屋」に就職、グループ内の宝石・めがね部門に転出。その後、ダイエーグループの株式会社ゼノンを経て、平成12年9月に独立し、西武新宿線柳沢駅北口に「マイスターメガネ」を開店。現在に至っています。

■東京で付き合いのある友人はいらっしゃいますか？

東京近郊に居住している中学・高校時代の同級生である岡本琢二くん、佐々木勝康

くん、関口洋一くん、林 真弘くん、小澤伸之くん、後藤一典くん、木津川智子さんなどと連絡を取り合い、たまに顔を会わせています。

特に、農林水産省に勤務している岡本くんとは連絡をとりあいながら同期会を企画し交流をしています。

■滝川での想い出をお聞かせください。

小学校時代、新十津川町の学園や里見峠までみんなで楽しいサイクリングをしたことが昨日のこのように思い出します。また、里見峠の下を流れる徳富川で実施した炊事遠足がとても記憶に残っています。

中学校時代は、滝川公園に遠足に行き、その時食べたジンギスカンは格別な味でした。

中学校から柔道を始め、江陵中学校では吉田先生、滝川高校では横山先生の指導を受け、お陰様で高校3年時には、北海道高等学校体育大会北海道大会団体第3位ならびに個人戦中量級で全道第3位に入賞したことが一番の思い出です。今でも週2回道場に通い稽古を続けており、大会にも時々出場しています。

■ご家族と趣味についてお聞かせください。

東京で知り合った妻と結婚し、高校生の長男と中学生の長女と4人で暮らしてい

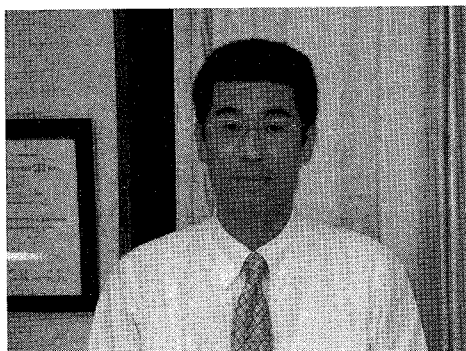
ます。長男は、柔道部、長女はバレーボール部に所属し、それぞれ熱中しているところです。趣味は、学生時代に凝っていたバンドです。今は、息子にも教えています。

■滝川のまちづくりに一言

滝川市は、立地条件及び自然条件など非常に恵まれている土地なのに「滝川」という地名を知らない人が多いことを痛感します。

今の時代、情報発信と智恵を出し合うことが重要なことであると思います。しかるに、常にデータの更新を図り情報発信に心がけるとともに定住人口を増やすためにも製造業を中心とした企業誘致を積極的に展開する必要があると思います。

(平成19年2月20日西東京市『マイスターメガネ』にて東京滝川会事務局長瀬インタビュー)



独立して経営に全力を尽くす稲垣さん

今年も菜の花満開

5月27日(日)丸加高原伝習館にて「たきかわ菜の花まつり」が開催されました。前日までの雨模様とは打って変わり、当日は晴天に恵まれ、家族連れや写真愛好家からおおよそ5000人が参加し、春を満喫していました。



大勢の観光客や家族連れで大盛況

会場では、地元産ナタネを原料とした新発売の「たきかわ菜の花ドレッシング」を販売。菜の花天ぷら、菜の花もちなどの無料サービス、ナタネ油を燃料にしたトラクターの試走もあり、会場を訪れた人は大満足の様子でした。

この日、滝川消費者協会が中心市街地の活性化などを目的に自転車の車輪やフレームなどを再利用して製作した屋台風の

入会者募集中



観光大使が菜の花を手を PR

現在、東京滝川会では新規入会者を募集しております。ご家族、ご友人で入会ご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。

リヤカー「りやかあさん」も登場しました。「りやかあさん」は消費者協会の会員のおかあさんたちが、このリヤカーで地元野菜などを移動販売し、懐かしい行商の雰囲気滝川を盛り立てようと考案されたもの。当日は、10人程のおかあさんたちが、滝川産アスパラや花の苗などを販売し、多くの人が買い求めていました。

また、このまつりに合わせて、今年3月に発足した「さつぽろ滝川会」のメンバーも来場され、鮮やかな黄色の菜の花畑を十分に堪能されていました。

たきかわ市民ミュージカル開催

【公演名】「シレニアの歌」
平成19年11月18日(日)昼夜2公演
滝川市文化センター大ホール
【脚本】山元清多【演出】伊藤明子
【作曲・音楽監督】加賀清孝
【演奏】滝川市民吹奏楽団
滝川初となるオリジナル脚本による市民ミュージカルが公演されます。今回も市民による感動の舞台となります。是非、この機会にふるさと滝川へお越しいただき情熱を感じてください。

ふるさとツアー参加者募集中

【日程】7月7日(土)～9日(月)
【内容】たきかわの夏祭り「ジンギスカン王国たきかわ」を満喫する旅
【参加料】5,000円(1昼食・2夕食付)
【宿泊代】13,000円(2朝食付)
※他にグライダー搭乗のオプションあり
【締切】6月25日(月)
【申込み・お問合せ】
東京滝川会事務局
TEL 0125-23-2716
FAX 0125-23-5839

東京滝川会からのお知らせ

経営コンサルタント 菅原 務 滝工卒 三期 埼玉県所沢市星の宮一・七・九 TEL 〇四・二九二四・二八七七	松戸中部クリニックス 院長 溝口 勲 滝中卒 二十五期 千葉県松戸市松戸二〇九〇 TEL 〇四七・三六七・〇三〇〇	前 郁 夫 滝高卒 二期 東京都小平市花小金井五・一二・二	増田 聰 允 滝西高卒 二期 東京都武蔵野市八幡町三・五・九 クラレテ武蔵野七〇号 TEL 〇四二二・三七・六二六一	関東コーワ 取締役会長 大川 浩 滝高卒 一期 神奈川県厚木市恩名五・五・三〇・六〇二 TEL 〇四六・二五〇・七二五七
--	--	--	---	---